

あつめよう

“ 農地集積でより良い営農を築こう ”



農事組合法人Natureの役員と従業員、そして仲間の皆さん（村田町針生前地区）

農地集積に関する各地の主な取組等

- 大河原地方農地集積指導チーム : 9月9日 平成29年度第1回農地集積活動検討会を実施
- 仙台地方農地集積指導チーム : 6月27日～7月4日 平成29年度農地集積戦略会議を実施
8月～9月 実施地区巡回打合せを実施
- 北部地方農地集積指導チーム : 7月18日～8月2日 平成29年度第1回大崎地域農業農村活性化推進
会議を実施
7月19日 平成29年度北部管内農地集積担当者会議・新担当者研修会
を実施
- 栗原地域農地集積指導チーム : 7月19日 平成29年度北部管内農地集積担当者会議・新担当者研修会
を実施
7月24日～27日 平成29年度第1回農地集積戦略会議を実施
- 登米地域農地集積指導チーム : 8月3日～4日 平成29年度第1回農地集積戦略会議を実施
8月30日 平成29年度活性化計画等の変更に関する事務所ヒアリングを
実施
- 東部地方農地集積指導チーム : 7月5日 平成29年度第1回石巻地域農地集積指導チーム会議を実施
7月12日～14日 平成29年度第1回農地集積戦略会議を実施
9月8日 平成29年度集落営農育成に関する研修会を実施
- 農村整備課 : 7月28日 平成29年度第1回農地集積研修会を実施
9月14日～19日 平成29年度活性化計画等の変更打合せを実施
- みやぎ農業振興公社 : 各管内農地集積戦略会議等に出席
- 宮城県土地連換地・集積班 : 各管内農地集積戦略会議等に出席

換地部換地・集積班

特集：おらほの担い手

1. 地区のようす

針生前地区は宮城県南西部の村田町にあり、当町は標高200m前後の丘陵に囲まれ、平坦部の中央を白石川の支流である荒川が流れる地域で、高速道路のIC周辺は工業団地の立地が進み、第2次産業も盛んなところです。町の中心部は江戸時代後期に京都・大阪・江戸との紅花交易で繁栄した商人町の面影が今も町の中心部に蔵の町並みを残しています。

町の気候は県内の気候区から見ると比較的温暖な地域で、水稻以外に酪農、肉用牛、野菜等の園芸作物を組み合わせた複合経営が定着しています。

当地区の事業実施前は、ほとんどの農地が未整備地で区画形状も狭小で不整形が多く、農道も狭く規模拡大や大型機械化による営農の障害となっていました。さらに用排水路も兼用の土水路のため維持管理も非常に苦慮していたことから、平成22年から農地整備事業を実施し、ほ場の整備を進め、地区の担い手として個別農家2名と1法人を育成し、地区内の農地集積を図ることで過剰投資の削減を実現しながら現在に至っています。

また、平成26年度から農地中間管理事業と農地整備事業実施地区との連携のモデル地区としていち早く取り組んだことで担い手への農地利用の集積・集約化の成果をあげています。

さらに、地区周辺には多面的機能の維持、発揮を図るための組織として地域資源保全隊が結成され活動も行われています。

地区名：針生前
事業名：農業競争力強化基盤整備事業
農地整備事業（経営体育成型（集約））
関係市町村：村田町
工期：平成22年度～平成30年度
受益面積：A=24.36ha
農家戸数：83戸
総事業費：493百万円
H28実績集積面積：18.08ha（うち面的18.08ha）
H28実績集積率：74.22%（うち面的74.22%）
H31促進計画目標集積面積：16.0ha（うち面的16.0ha）
H31促進計画目標集積率：65.68%（うち面的65.68%）



2. 法人化へのきっかけと支援

今回紹介する「農事組合法人Nature（呼び名：ネイチャー）」は、針生前地区の担い手として平成26年12月1日に設立し、平成27年1月5日法人登記された農事組合法人です。

前身は、平成16年から大豆・稲ホールクroppサイレージ等の転作を担う農作業組織として平成16年12月、参加農家3戸で「Nature」を設立し、平成18年11月からは特定農業団体と同様の要件を満たす組織としてオペレータ型の集落営農組織「Nature」と成りました。

同法人の設立のきっかけは、組織の一人の若者が地域の耕作放棄地の解消と農用地の保全、利用集積等を図り安定した経営体の設立を目前に他界し解散が漂う中、若者の意志を引き継ぎ、新たなメンバーを加え、地域農業の維持・発展のための組織のあり方の検討を重ねて来た結果、任意組織では出来ない運転資金の確保や固定資産取得準備金の積立、そして節税の効果や経営の多角化など事業展開の可能性が広がり経営の発展が期待できることから法人に至っています。

構成員は現在3名で、転作の大豆と稲ホールクroppサイレージの農作業受委託を中心とした経営を行い、地元はもとより周辺の市・町へ農業を展開しています。

地区の基盤整備関連経営体育成等促進計画では、2戸の担い手農家と1法人が占める地区全体の集積面積割合は65.68%（集積面積16.0ha）で、うち当法人は49.62%（7.94ha）を担う事になっており、平成28年度末現在15.2haと取組を拡大している法人です。

法人化へ向けた支援は、県担い手育成総合支援協議会と農業改良普及センターを中心に村田町の協力を得て行いました。

3. 農事組合法人 Nature の概要

(1) 概要

- ・名称: 農事組合法人 Nature
- ・構成員: 3名
- ・従業員: 4名
- ・パート: 1名(女性事務員)
- ・役員数: 3人(代表理事組合長1名、理事2名)
- ・法人の経営面積: 40.1haうち地区内15.2ha(平成28年産実績)
- ・H29作付作物:、大豆21.2ha、大麦1.3ha、水稻3.4ha、飼料用米7.0ha、備蓄米0.7ha、稲ホールクroppサイレージ6.9ha

(2) 法人設立までの経緯

- ・H16年12月頃 集落営農組織Natureを3名で設立
- ・H26年7月～H26年11月 法人設立に向けた勉強会
- ・H26年12月1日 設立総会
- ・H27年1月5日 法人登記
- ・H27年3月18日 認定農業者取得

(3) 法人の目標

- ①規模拡大と経営の安定化
- ②GPSとタブレットPCを活用したほ場位置と効率の良い刈取り順序の設定。
- ③周年就業の確保に向けた一つの選択肢として多角経営をめざし農事組合法人の体力強化を図る。
- ④当法人のモットーは『共に汗す』です。

(4) 法人の今と将来の課題

- ①周年就業作業の確保。(特に作業が無い1月と2月の期間)
- ②経営を担う後継者の育成。



法人の事務所



法人代表と理事

(5) 地区内の集積と法人の集積実績

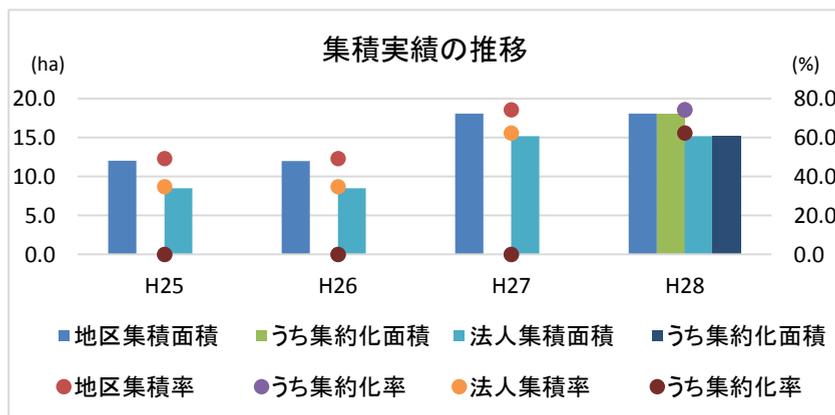
(単位:ha、%)

区分		H25	H26	H27	H28
地区全体	地区集積面積	12.0	12.0	18.1	18.1
	地区集積率	49.3	49.3	74.2	74.2
	うち集約化面積	0.0	0.0	0.0	18.1
	うち集約化率	0.0	0.0	0.0	74.2
うち Nature	法人集積面積	8.5	8.5	15.2	15.2
	法人集積率	34.9	34.9	62.3	62.3
	うち集約化面積	0.0	0.0	0.0	15.2
	うち集約化率	0.0	0.0	0.0	62.3

(注)網掛けの部分は法人化前を示す。



稲WCSの刈取り作業



ロールの回収作業

(6) 経営規模実績と目標

区分	法人化前	1年目	2年目	3年目
	H26	H27	H28	H29
水稻	-	-	2.5	3.4
備蓄米	-	-	0.0	0.7
大麦	5.0	-	6.0	1.3
大豆	20.0	35.0	23.0	21.2
稲WCS	8.7	9.0	7.6	6.9
飼料用米	3.3	4.5	6.0	7.0
計	37.0	48.5	45.1	40.5

(単位:ha)

目標
H31
5.0
7.0
5.0
30.0
10.0
10.0
67.0

(H29年作付品種)

- ① 水稻: ひとめぼれ、まなむすめ
- ② 大麦: シュンライ
- ③ 大豆: あやこがね
- ④ 稲WCS: まなむすめ(早稲種)
- ⑤ 飼料用米: あきだわら、げんきまる

※H28年産の10a当たりの収量(水稻8俵、大麦350kg、大豆120kg、稲WCS1,800kg)

(7) 施設設備

○トラクター

・65ps1台、50ps1台、32ps1台、20Pps1台、他に構成員所有3台。

○田植え機

・8条植え1台、6条植え2台

○大豆用専用コンバイン2台

○ペーラコンバイン3台

○ブームスプレーヤ1台

※水稻用コンバインや大豆乾燥機は構成員の物を使用。



ラッピング作業

(8) 生産販売品目と出荷先

- 大豆と稲WCSを中心に取り組み、JAへ全量出荷を行っています。

(9) 農地集積

- 農地中間管理事業と農地整備事業実施地区との連携の観点から平成26年度～平成28年度までに個別担い手農家2戸と共に農地中間管理事業を活用(17.6ha(借受け希望面積83.0ha)うち法人3.1ha(借受け希望面積60.0ha))し、農地の利用集積を進め経営規模の拡大を目指しています。

なお、地域集積協力は「針生前地区経営体育成基盤整備事業推進協議会」が受け入れ、事業費償還金として積み立てを行っています。

(10) 活動の特徴

【法人同士の協力体制】

村田町内の3つの法人((有)サン・ファーム葦神、農事組合法人 北向結ファーム、当法人)が、手数料等無しで互いに作業を手伝う「結」を実践しています。

【多面的機能の維持、発揮を図るための活動】

当法人は、平成26年12月に設立された関場・沼田地区地域資源保全隊の構成員として加わり、村田町関場と沼田地区集落地先に存する農用地、水路、農道等の地域資源の保全に唯一の法人として積極的に活動(トラクター等での除草)を行っています。



地域資源の保全管理活動作業(堀上作業)

(11) 後継者の育成

- 役員並びに従業員は60歳後半で、後継者の育成が急務となっています。そのため、経営感覚とやる気を兼ね備えた若者の就農環境づくりに奮闘中です。

(12) 地域貢献

- 自ら感謝のイベントを開催するまでには至っていませんが、常に地域の理解と協力に感謝し、法人として今できる地元への貢献として「地域資源保全隊」の活動に協力しています。
- 毎年、従業員の外に地元雇用創出の貢献として、収穫期間、作業機械の操作資格を持った方をアルバイトとして雇っています。

(13) その他

【野生鳥獣による農業被害と対策】

- 取材で、役員さんより周囲には山があるため、近年、イノシシによる畑作の被害が深刻で、その対策に苦慮している。熊は今のところ未だ来ていないが以前、シカやサル、ハクビシンによる被害もあり、周年就農を考えた場合、この場所では畑作が出来ない地域となった。その対策の一環として基盤整備による畑地化の確保が必要であると語ってくれました。

【問い合わせ先】

宮城県土地改良事業団体連合会 (水土里ネットみやぎ)

換地部換地・集積班

〒980-0011

仙台市青葉区上杉二丁目2番8号 TEL:022-263-5815 FAX:022-268-6390